

令和2年度 第2回 上田市総合教育会議(令和2年11月4日) 議事録

1 開会

2 土屋市長あいさつ

本日は令和2年度、第2回目となります上田市総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

平素から、峯村教育長をはじめ教育委員の皆さま方には、子どもたちの教育の充実と発展のため、大変な御尽力をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

まず、今も「新しい生活様式」などの配慮が必要とされる新型コロナウイルス感染症につきましては、学校において子ども達が安心して学び、過ごせることが大切であり、教育現場での感染防止対策を実践いただいておりますことに、重ねて感謝を申し上げます。

今後も引き続き、「新しい生活様式」が必要であるということを、改めて強く感じております。

さて、本日の会議では、前回5月の会議に引き続き、「上田市教育大綱」と「第2期上田市教育支援プラン」の見直しについて、それぞれ改訂の素案をもとに、教育委員の皆さまとの協議・検討を行うことを主な議題としております。

現在、市では、教育大綱の上位計画に当たる「第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画」を令和3年度から5年間の期間として策定を進めていますが、「教育」と「文化」に関する分野の施策の方向性は前期計画から大きな変更はなく、これまでの取組や成果を生かしながら、将来都市像の実現を目指すこととしています。

一方で、GIGA スクール構想などもありますICT化の流れ、また、6月に文化庁から認定を受けました「日本遺産」の関係など、市を取り巻く社会情勢の変化への対応として必要な見直しを行っております。

教育大綱及び教育支援プランの見直しにあたりましても、将来を見据え、総合計画との整合も踏まえて適切な改訂につながればと願っています。

本日の会議では、「上田市教育」を一層推進していくため、皆さまからの御意見・御提言をお聞きする中で、教育委員会と市長部局との方向性の共有が図られることを期待しております。

10月下旬、新聞に掲載がありました「幸福度」に関する調査では、日本の子どもは37位という結果が報じられました。現代社会において、子ども達がいかに「幸福」と感じられるか、あるいは、感謝することを日常生活の中で感じ取れるような「まちづくり」や「人づくり」が大切であると感じており、限られた時間ではありますが、皆さまと意見交換できればと思っています。

以上 簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます。

3 峯村教育長あいさつ

今年度 第2回目となります上田市総合教育会議の開催にあたり、一言あいさつを申し上げます。

日頃から、土屋市長には、上田市の教育行政発展のため、多大なる御支援、御協力をいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

前回の総合教育会議は5月27日ということで、小中学校において分散登校がはじまったとこ

ろでありました。その後、感染予防対策を講じた上で学校が再開され、現在、学校では、新しいルールのもと、制約のある中でも、子どもたちが元気に学ぶ姿を見ることができます。

修学旅行や音楽会などの諸行事につきましては、計画を見直しながらも、児童生徒の貴重な学びや体験の機会として、学校関係者や保護者の皆さんの理解のもと実施をすることができたもの多くございます。

まだ、終息まで道のりは見通せないわけですが、改めて、市全体の感染症対策に御尽力されている土屋市長に感謝を申し上げたいと思います。

さて、先週末は、全国山城サミット上田・坂城大会が開催されました。コロナ感染症対策で実施内容の見直しも余儀なくされたものもありましたが、山城ガイドツアーには県内から 150 人余の参加者があり、上田の山城を楽しんでいただきました。また、オンラインで講演会の動画を配信し、大勢の皆さんに見ていただくことができました。日ごろから山城の保存に尽力されている地域の皆さん方のお力により開催できたわけですが、ふるさとを学ぶ学習として、子どもたちに引き継ぎたい多くの魅力ある資源が、上田市にはまだまだたくさんあると感じております。

本日は、前回に引き続き、上田市教育大綱と第2期上田市教育支援プランの改訂について、土屋市長と意見交換・協議の機会をいただきました。教育委員会では、上田市の教育大綱の基本理念であります「燦(さん)と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」に基づき、各種の取組を行っております。本日の会議を通して、上田市が抱える教育課題について土屋市長のお考えをお聞きしながら、今後の上田市の教育が目指すべき方向について、ともに考えていきたいと思っております。

本日の会議も市と教育委員会が一体となって教育行政を推進するための意義ある会議となりますことを願ひまして、私からのあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

4 会議事項

(1) 上田市教育大綱の分野別施策の進行状況の確認について

●柳原政策企画部長

資料1をもとに、テーマを「日本遺産」関連に絞って議論することについて説明

※第1回会議でも確認している資料のうち、委員から多く寄せられた質問項目を選定

●柳原政策企画部長

この件について、皆さんから御意見や御質問がありましたらお願いします。

●綿谷教育委員

今年6月、信州上田、塩田平が日本遺産の認定を受け、上田市民として喜ばしく、誇りに思っている。この日本遺産の認定を活かし、定住・移住の促進を図っていくことが大切であると思う。こうした中、子ども達の屋外学習の場として、また、ガイドの育成にも子ども達が関わるなど、歴史文化を守りながら郷土愛を育むため、子ども達を巻き込みながら各種事業を進めて行くことについて、市長の考えをお聞きしたい。

また、コロナ禍の中にあるが、全国から修学旅行の場所として受け入れられるような対応についても、どのような考えかをお聞きしたい。

●土屋市長

文化財を保存するだけでなく、活用していくという新たな動きが出てきている。塩田平のほうでも「信州の鎌倉」という表現から「太陽と大地の聖地」に変更し、教育委員会を中心にストーリーを作ってきた経過もあり、今回の認定は大変嬉しく感じている。現在は交流文化スポーツ課に日本遺産担当を置き、さまざまな事業を進めている。

この日本遺産認定が、地域の伝統的なお祭りなどにも光が当たるひとつのきっかけになればと考えているところであり、これからの将来を担っていく子ども達に対しては、身近な文化財、ため池をテーマとして、「信州上田学」も活用するなど、さまざまな角度から学んでいただき、一つひとつ誇りをもって成長してもらえればありがたいと思っている。

修学旅行については、旅行のパンフレットでも「日本遺産めぐり」などがあり、また、千曲市では「月の都」という表現を使って日本遺産の認定を受けているため、しなの鉄道沿線などの広がりを持って誘客に向けた仕組みづくりを進めたいと考えている。

●横関教育委員

この「日本遺産の認定」を活用し、地域の活性化を図っていただきたいと思っている。推進協議会での取組は進んでいると思うが、ぜひ、長野大学等の学生と一緒に、実践できる場としていただきたい。学生は地域を学び、地域は若者を大事にしながら活性化していくことが大事だと考えている。若者の活躍なくして地域の活性化はないと思うので、ぜひ連携してほしい。

●森田教育委員

日本遺産という、素晴らしい学習コンテンツを得たものと考えている。学校でも「信州上田学」として、歴史・文化・風土を知る、そして今後、自分たちがどういう提案ができるか、情報を発信するかなど、地元根付いた課題解決という視点で取り組んでいてもらいたい。

●北沢教育委員

今回の「日本遺産」登録により、観光資源に再度スポットが当たったものと捉え、今後活かしてもらいたいと考えている。しかし、周知が足りていないという問題点もあることから、本来の趣旨からすると県の観光担当部署が、千曲市や木曾町の日本遺産と一緒に宣伝するよう、上田市から県に働きかけてもらいたい。

上田市の今後の進め方としては、産学官が連携することも必要で、旅行会社や塩田に住む学生のアイデアを取り入れ、特に、長野大学でのボランティアガイドなどの取組も重要と考えている。JRやしなの鉄道、別所電鉄との連携のアイデアなどを広く取り入れ、従来からあるマツタケや無言館など、さまざまな観光地に多くの人に来ていただけるよう考えてもらいたい。

●土屋市長

これまで、長野大学でも「日本遺産」の研究に取り組んでいるゼミなどもあり、情報発信なども含め連携を密にしていきたいと思っている。今回の認定により、学習コンテンツとして、ふるさとを見つめ直す機会になったものと考えている。また、観光資源として周知を図るため、さまざまなメディアを使ってのPRや、関連する旅行会社など各企業にも足を運びながら、お願いしていきたいと思っている。県のほうでも底上げを図る考えもあるため、連携を深めて対応していきたい。

推進協議会については、文化庁から助成される予算を3つの部会に分け、事業展開について進めて行くこととなっている。

(2) 上田市教育大綱及び上田市教育支援プランの改訂版(案)について

「上田市教育大綱」改訂版(案)

●鎌原政策企画課長

資料2により説明<上田市教育大綱の改訂案について>

●柳原政策企画部長

ただ今の説明につきまして、御質問や御意見がありましたら、よろしくお願ひいたします。

●横関教育委員

説明では「生きる力」を「知・徳・体」と言われたが、「体」の部分がどちらにあるか確認したい。

●政策企画課長

学校教育分野の「人づくり」の中では、ストレートに「体」の部分に当たる文言はないものと認識しているところだが、「たくましく」という文言を強調するなり、切り分けるということも必要かと考えている。

●横関教育委員

次に議題としている「教育支援プラン」の中では、「夢や希望を持って未来を切り拓く力を養う」となっていて、「心と体」のことを示すような表現にまとまっているように思うので、さらに考えていただきたい。

●森田教育委員

今回の改訂案で削られてしまっている「表現力」という考えは、非常に重要な教育の軸になるものであり、例えば「人づくり」の1文目を「自ら考え、判断し課題を解決し表現する力」とするなど、検討してほしい。

●北沢教育委員

策定する時の視点が大事である。「生きる力」は3つ(知・徳・体)に分析できる中で、今回の「人づくり」の項目内には「学力(知)」に関するものが3つ含まれている状況のため、「表現力」だけでなく「思考力」や「判断力」も必要だという議論となる。視点を明確にしないと、大きな枠と小さな枠が混在する結果となってしまふ。「生きる力」の3つと、「確かな学力」の3つをどのように表現するか考えて組み立ててほしい。

●政策企画課長

御指摘はごもっともであり、御意見を踏まえつつ、現行の大綱を尊重しながら整理させていただくということで、御理解をいただきたい。

●北沢教育委員

同じ個所の最後の2文は、上田市独自の形で残すべきと考えている。「豊かな心と」の部分、また、「表現力」との部分の削除についても、私は一つの考えだと思っている。例えば、「物事に主体的に取り組む」とすることも一つの案として、もう少し考えていただきたい。

4ページの部分について、「人づくり」の1文で「与え」という文言は、「届け」や「感じられる」など、別の表現に修正したほうが良いと思う。

「第3期上田市教育支援プラン」(案)

●緑川学校教育課長

資料3により説明<第3期上田市教育支援プラン(案)について>

●柳原政策企画部長

ただ今の説明につきまして、御質問や御意見がありましたら、よろしく願いいたします。

●綿谷教育委員

基本施策2「未来を切り拓く力の育成」の中で、支援策4の文言を変更としている部分について、「グローバル社会」も言葉としては合っていると思うが、前回の「コミュニケーション能力」や「英会話」といった表現のほうが、私は良いように思う。

●北沢教育委員

今の件に関して、基本目標の中に「グローバル社会」との文言があり、支援策にも同じ文言を入れることは、あり得ないものとする。私は、基本目標のほうの文言を消し、ふるさと「上田」を愛する心を育む、とすれば整合が取れる。目標と施策が同じでは、意味がないと思う。

●横関教育委員

新学習要領の改訂で大きく変わったところが「生きる力」の部分だと思うが、教育支援プランの3ページでは注意書きとして小さく記載がある程度となっている。見る人がはっきり分かるよう記載すべきと考えるが、教育長の考えをお聞きしたい。

●峯村教育長

御指摘の「生きる力」の表記については、説明する文章がかなり長くなってしまふこともあり、注釈として書き示す方法として進めてきた。御意見としてお受けし、検討したい。

●横関教育委員

支援プランの基本目標の中にもあるが、「夢や希望を持つ」子どもが減ってきていると思う。「夢や希望を持つ」ため、どのようなことをすべきか、市長と教育長の考えをお聞きしたい。

●土屋市長

小中学生に限らず、どの年代でも必要な考え方だと思うが、それぞれの年代における体験、読書やクラブ活動なども一つの手段となるが、体験や実践により発想が生まれてくるものと考えている。また、「感謝」の気持ちも大事なことで、命のつながりが当たり前では無いことも感じてもらいたいし、その気持ちによって「夢や希望」を持ち、諦めない気持ちで取り組んで行かれるのではないかと思っている。

●峯村教育長

「夢や希望を持って未来を切り拓く」のベースとなるものが自尊感情であり、自己肯定感を育てて行かなければいけないと考えている。子ども達が、自分の引き出しをいっぱい持つことが大事であり、周りからの支援や助言により自分ができることを自覚し、達成感が生まれ、自己肯定感ができると、目標を持って取り組もうという気持ちになるものと思っている。どんな形の未来に遭遇しても対応できるようなキャパシティを育てていく必要があると考えている。

●横関教育委員

この教育支援プランは良くできていると思うので、市長と教育長の思いを盛り込んでいただき、上田での子育てに役立つようなものにしてほしい。

●森田教育委員

グローバル社会の件については、自動翻訳などAIの発展もあることから、英語など語学を覚えるだけでなく、「コミュニケーション能力」を身に付けることが重要だと思う。

素晴らしい改訂プランとなっているが、この中に「上田らしさ」として、例えば市長が以前から言われてきた「感謝する心」を軸にするなどして、自己肯定により自分を大切にすること、周りに育まれて自分があり、周りを大切にすることにつながると思うので、プランの中に反映されると良いのではないかと思う。

●北沢教育委員

基本施策 2 番、支援策 5「幼保小中高大」の部分については、以前のままのほうが良い。上田市内にある公立の高校にまで「切れ目のない支援の充実」というのは、誤解を生む表現になると思う。内容的には「連携推進」ということで、戻していただきたい。

また、支援策 9 も以前のまま「体力づくりの推進」が良いと思っている。

一番は、基本目標の中で「確かな学力」や「未来を切り拓く力」という文言はあるが、「ふるさとを愛する心」については、基本施策 5 の部分に、何らかの形で入れていただきたいと考えている。市長からは、「ふるさと上田市から進学等で行っても、また戻ってきていただきたい」といった発言を聞くが、どうすれば上田市に戻ってきてもらえるようになるかと考えているか、お聞きしたい。

●土屋市長

戻ってきてほしいと願うのは、ふるさとに誇りを持って愛してほしいということであり、大事な視点だと思う。小さい頃から、普段の生活や学びの中で「郷土愛」を持ってもらい、ふるさとに対する「感謝の気持ち」を持ってもらえるようなことが必要だと感じている。行政として、住宅政策や産業を興すことなども必要と考えている。

●横関教育委員

学校訪問に行くと、数年前に比べて主体的で対話的な学びが多くなっていて、子どもたちが生き生きと楽しそうに学び、自分たちから「学びたい」といった姿勢を見ることができる。やはり「授業改善」は重要だと思う。教育長の肝入りで取り組まれている「授業を語る会」は、コロナ禍ではあるが先生方のモチベーションを上げ、子どもたちと向き合おうとする気持ちを高めるために続けてほしいと思うが、教育長の考えをお聞きしたい。

●峯村教育長

学校の職員が元気でなければ子どもが育たない。元気にするにはどうするか考えたとき、上意下達の指示ばかりでは駄目だと考えた。自分たちが日ごろ悩んでいることを語り合うことで気持ちが晴れ、次の日に頑張る気持ちが生まれるのではないかと考えている。ファシリテーター役は校長や教頭経験者以外で、引き出しをたくさん持っている人、心に寄り添うことができる人をお願いして昨年からはじめたが、コロナの影響で3密を避けるため、実施が難しい状況となってい

る。悩みを語り合うには、場の雰囲気を感じることも大事であるので、感染状況が落ち着いている時期を見て実施するなど、先生が元気を出してもらえるよう、教育委員会として努めていきたいと考えている。

●横関教育委員

先生が「夢や希望」を語れるようになってほしいと思う。元気な大人が周りにいるということが、この社会が明るくて楽しくて素晴らしいところだと大人が発信していくことになるのだと思う。そして、子どもたちは目標を持ち、達成感を積み重ね、自己肯定感を高めていくことが重要と考えている。私も子どもたちのために上田市の教育が良くなるよう盛り上げていけたらと思う。

●柳原政策企画部長

ありがとうございました。さまざまな御意見を頂戴いたしました。本日の御意見等を踏まえまして、今後、「上田市教育大綱」と「第2期上田市教育支援プラン」の改訂に向け、それぞれの取組内容について共有を図りながら、調整を行ってまいりたいと考えております。

●土屋市長

学校訪問については、ぜひ時間を作って行きたいと思っている。先日、北小学校で話をする機会があった。読書や体験することを通して「夢・希望」の考えを深めていくこと、また、話を聞くことが大事な経験だと思う。

5 その他

●柳原政策企画部長

それでは今後、修正案を事務局で調整のうえ、委員の皆さまに文書でご確認をいただく形としたいと思います。次回会議につきましては、次第に記載いたしましたとおり、来年2月頃、「上田市教育大綱」と「第3期上田市教育支援プラン」の成案を御確認いただくため開催することとして、御提案をさせていただきます。

詳細日程につきましては、日を改めて御連絡したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、本日の会議事項は以上となりますので、これにて閉会させていただきます。誠にありがとうございました。